

予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤事業 エビデンス構築促進事業事業
令和7年度事後評価結果について

令和8年3月
国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療機器・ヘルスケア事業部
ヘルスケア研究開発課

1. 事後評価の目的

研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業の運営の改善に資することを目的とする。

2. 課題評価委員会

書面審査実施： 令和8年2月6日（金）～令和8年2月20日（金）

ヒアリング審査実施： 令和8年2月27日（金）

3. 課題評価委員

別紙のとおり

4. 評価項目

①研究開発達成状況

・研究開発計画に対する達成状況はどうか

②研究開発成果

・当初計画していた成果が着実に得られたか

・成果は健康医療分野の進展に資するものであるか・成果は新技術の創出に資するものであるか

・成果は社会的ニーズへ対応するものであるか

・必要な知的財産の確保がなされたか

③実施体制

・研究開発代表者を中心とした研究開発体制が適切に組織されていたか

・十分な連携体制が構築されていたか

④今後の見通し

・今後、研究開発成果のさらなる展開が期待できるか

⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目

・生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守していたか

・専門学術雑誌への発表並びに学会での講演及び発表など科学技術コミュニケーション

ン活動（アウトリーチ活動）が図られていたか

⑥総合評価

5. 評価対象課題

開始年度	研究開発 代表者	研究開発機関	役職	研究開発課題名
令和5年度	木之下 節夫	日本テクトシステムズ株式会社	部長	MCI における認知機能低下を簡易に検知する機械学習モデルとセルフチェックアプリの研究開発
令和5年度	三村 将	慶應義塾大学	特任教授	将来の認知機能予測に基づくテーラーメイド行動変容プログラム開発
令和5年度	古和 久朋	神戸大学	教授	認知症予防を目指した多因子介入の長期効果ならびに社会実装に向けた発展的介入の効果検証研究
令和5年度	大沢 愛子	国立長寿医療研究センター	医長	認知症共生社会の実現を目指すための他者交流多因子ヘルスケアサービスの社会実装研究
令和5年度	岡村 毅	東京都健康長寿医療センター	研究副部長	インクルーシブな仕事を通じた認知症共生社会作りの研究
令和5年度	鈴木 宏幸	東京都健康長寿医療センター	研究副部長	楽しみとやりがいの創発による認知症共生：社会参加型創作教室プログラムに関する研究開発

6. 総評

令和7年度終了6課題を対象に、課題評価委員会による書面審査およびヒアリング審査による評価を行った。その後、総合討論を行い、課題評価委員会としての評価結果を確定した。総合評点の結果は、2課題が「計画どおり進捗した、または計画した成果が得られた」、4課題が「計画どおり進捗していない、または計画した成果が得られていない」と判断された。全ての委員より出された意見の集約結果については、事後評価通知文として研究開発代表者に通知した。

(別紙)

予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業

エビデンス構築促進事業 課題評価委員会 委員名簿

令和8年2月27日現在

(五十音順)

氏名	所属	役職
◎秋山 治彦	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 臨床研究部	部長
粟田 圭一	東京都健康長寿医療センター研究所 認知症未来社会創造センター	センター長
井原 涼子	東京都健康長寿医療センター 病院 神経内科	医長
大塚 礼	国立長寿医療研究センター 老年疫学研究部	部長
篠田 美紀	大阪公立大学大学院 生活科学研究科 生活科学専攻	教授
富本 秀和	三重大学 神経病態内科学	特定教授
和田 健二	川崎医科大学 認知症学教室	教授

◎： 評価委員長